

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2018.1

vol. 141



新年明けまして おめでとうございます。

院長 田中 康博

平成30年は診療、介護、障害福祉サービス報酬の同時改定、さらに地域医療構想調整も本格化し、変革の年と言われていますが、一方では医療の原点を真剣に見直す年でもあると思っております。鹿児島医療センターにとりましても、もっとも重要な一年で一言申し上げます。

鹿児島通信病院医療機能移転の合意に基づき、平成30年4月より運用が始まります。病床数370から410に増床、肝臓内科を迎え消化器内科部門の充実、腎臓内科、眼科が新設されます。今まで不得手としていた診療科が充実され、今まで以上にお役に立てられるのではないかと考えています。鹿児島地域医療構想の中で高度急性期、急性期病院としての立ち位置をしっかりと固め、診療を充実させるとともに新しいチャレンジの年と考えています。

当院の使命はフットワーク良く高度医療を提供すること、規範となる医療を行うことにあると思えます。高い技術力で最新の治療を提供し、無駄な検査、過剰な治療は極力減らす医療を行っています。最新の医療にはリスクを伴うことや最良の医療にならない可能性もある事を充分理解したうえで、患者本人と相談しながら納得する治療方針の決定を行わなくてはなりません。安全運轉的な従来の治療だけに固執しすぎると、助けられる命も助けられなかったり、正確な情報が伝えられず、結果的に患者さんやご家族が満足されなかったりする事も有ります。それを避けるためには、常により早く新しい技術や治療法を習得するための努力を怠らず、絶えず自己研鑽することが求められます。このような姿勢は今後とも継続していきたいと思っております。

昨今、研修医が増え、若人が集まる施設に成りつつあると感じています。病院の質が向上してきたことを示す証ではないでしょうか。当院で良い研修をし、「医療のいろは」を習い、良い臨床家になって、今後鹿児島の医療向上のために臨床や研究で頑張ってくれることを期待しています。巣立った若い医師が、いつかまた当院の中心的スタッフになって頑張ってくれましたら、この上ない喜びです。今ここでしっかりと足を地につけ、ひたすらまじめに診療を行っていききたいと思っております。100%はなかなか難しいですが、可能な限り100%近く患者本人やご家族が満足できる医療を提供していく所存です。各診療科の現状等も述べたいところではありますが、割愛させていただきます。ホームページや広報誌の各診療科の項をご覧ください。

今年もよろしくお願いたします。

幹部年賀状



副院長
中島 均

明けましておめでとうございます。

昨年8月より副院長を拝命し、慣れない仕事に悪戦苦闘しております。中でも病院の医療安全の仕事が想像以上に大変で、毎日毎日、医療安全専従看護師とともに駆け回っております。群馬大学の腹腔鏡手術の多発死亡事例では、各科の医療技術レベルの把握など病院としてのガバナンスが問われている問題だと思われま。また、横浜の大口病院点滴事故の問題では、善意で成り立っているはずの病院内でも油断ならないという何とも気の重くなるような事件でした。この様な様々な情報をもとに、病院の医療安全をどう図っていくか、ない知恵を絞って検討しているところです。問題点ばかりの話になりましたが、今年はさらに病院規模も拡大する予定でありますので、今まで以上に鹿児島県内の医療に貢献出来るよう、職員一同努力してまいります。

本年も何卒よろしく申し上げます。



統括診療部長
松崎 勉

明けましておめでとうございます。

昨年を私なりに振り返りますと、衆議院選挙における新党設立、過労死問題からの働き方改革、角界での出来事など、組織力が問われた1年だったように思います。本年は、診療報酬改定の年で、医療、介護保険制度改革の年となり、医療界でも組織力がますます試される年になるかと考えます。

当院のがん部門においては、拠点病院として、質の高いがん医療はもとよりですが、緩和ケア提供体制、就労支援や両立支援などのがん相談体制などを進めてきておりますが、今後、地域緩和ケア連携調整、AYA世代のがん診療・相談への対応、がん治療連携計画策定の推進など、がん診療における連携の強化などが求められております。これらを更に推進する年にしたいと考えております。また、当院の電子カルテシステムは来年初めに更新予定です。本年はその構築を進めてまいります。ネットワーク上で可能な地域連携システムを模索していきたいと考えております。ぜひ、皆様と一緒に作り上げていければと思います。

さて、新年早々の連休は、恒例の「緩和ケア研修会」です。今年で10年目を迎えます。皆様のご協力で続けられていることに心から感謝致します。私も不慣れな立場となりましたが、当院が組織力を発揮し、皆様との連携をさらに進めていければと考えております。本年も、どうぞ宜しくお願い致します。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

明けましておめでとうございます。

平成11年10月に設置された臨床研究部は、平成18年から11年間にわたり東病棟8階で活動してきました。今年4月から当院は通信病院の機能移転に伴い410床の病院になります。8階が病棟に変わることから、臨床研究部は敷地内で移転することになりました。昨年11月に治験管理室は新外来棟の2階に移りました。また、臨床研究部はそれまで看護学生さんの更衣棟として使われていた建物に移りました。実験できるスペースは半分になり、冷凍庫、冷蔵庫、貯蔵していたサンプル、古くなった実験機器など処分しなければなりませんでした。心機一転、新たな場所で臨床研究の推進に努力したいと思っております。これまで同様、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

昨年は連携大学院大学院生の山本将義君が「Interleukin-33 induces growth-regulated oncogene- α expression and secretion in human umbilical vein endothelial cells.」という課題名で鹿児島大学大学院医学総合研究科博士課程の学位（医学博士）を取得しました。当院の連携大学院出身の学位1号です。学位取得第2号となる梅橋功征君は論文を投稿中で今年中には医学博士になる予定です。これからも学位取得者が増えてくれることを希望しています。今年もよろしくお願い致します。



メディカルサポート
センター長 兼
地域医療連携室室長
菅田 正浩

新年明けましておめでとうございます。
当院が地域医療支援病院として鹿児島県の承認を受けて以来、皆様からの多大なご指導とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年4月からの通信病院の医療機能移転のため、現在、外来棟や病棟の改修などを進めております。その関係上、昨年末からお忙しい時期に、入院制限のため患者受入れにご迷惑をおかけしております。

当院では、クライオやホットバルーンによる肺静脈隔離術、皮下植込み型除細動器S-ICD植込み、エキシマレーザー心内リード抜去、リードレスペースメーカ、ステントグラフト内挿術、経カテーテル大動脈弁置換術などの高度な治療が出来るようになっております。また、救急科も立ち上がり、救急患者の対応がスムーズになっております。循環器、脳卒中、およびがん部門の市民公開講座、当院主催の研究会、エキスパートナース等開催し、地域医療支援病院としての役割をより一層向上できるように邁進していきたく思います。

メディカルサポートセンターはこれまで通り、地域医療連携室（医療福祉相談、転院・退院相談）、入院支援（入院時早期ケア相談）、がん相談支援センターの三本柱で運営し、退院支援の積極的な取り組みや医療機関間の連携等に力を注いでいきたいと思っております。

本年も、“顔の見える連携室”を目指し、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長
森 幸一

新年明けましておめでとうございます。

昨年は当院の運営等につきまして、いろいろご協力いただきありがとうございました。

本年は、当院にとって重要な年となります。4月に控えています鹿児島通信病院からの医療機能の移転です。この医療機能移転に際し、東病棟8階の改修による新しい病棟、病棟開棟のための数々の準備等として、病院全体で取り組む鹿児島通信病院から当院へ異動していただく職員のみなさまへの研修等を3ヶ月の間に終える必要がありますので、事務部門として万全の体制で4月を迎えられるよう対応して参ります。

急速に少子高齢化が進む中で、医療保険制度の持続を求めるとともに、病床の機能の分化・連携を進め、効率的で質の高い医療供給体制の構築が進みつつあります。事務部門として、鹿児島県、鹿児島医療圏の状況等の情報を収集し、少しでも在宅医療を含む地域包括ケアシステム構築の一助となるよう努力して参ります。

また、平成30年4月は、診療報酬改定の年となっています。新聞報道で様々な情報が提供されています。病院の事務部門として、しっかり医療材料費の削減、施設基準の検討等実施し、患者さんに求められる病院を目指したいと考えています。

最後に、皆様方の役に立つ病院、自院の診療内容がわかるような情報提供を目指し、ひいては信頼される病院となるよう事務部一丸となって取り組んで参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部長
木佐貫 涼子

新年明けましておめでとうございます。

日頃より当院の運営につきまして皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

当院は2月に病院機能評価受審、4月に通信病院から医療機能移転が予定されており、これまで準備を進めてまいりました。

今年は戌年で、戌は“勤勉で努力家”、戌年は新たに何かを産むというスタートの年、四年収穫後のアフターフォローや更に親しくなる年のようなようです。病院機能評価受審、診療機能移転を飛躍のチャンスととらえ、「診療報酬同時改定」「働き方改革」「急性期医療に求められる役割」など社会状況の変化に柔軟に対応し、質改善・質向上に一つひとつ丁寧に取り組んでいきたいと思っております。また、これまで継続して実施しております地域の皆様とがん・脳卒中看護や基礎看護技術教育を通し共に学び高めあう環境を今後更に充実させていきたいと考えております。昨年よりTAVI治療など高齢者を対象とする新しい治療などが始まりました。当院が担う医療である心臓病・脳卒中・がんを柱とした患者さんの目線に立った、より専門性高い看護を提供し、急性期病院に求められる「迅速な対応ができる」体制を整え、地域の皆様との顔の見える連携強化のもと、地域のニーズに応えられる様、引き続き努力していきたくと思っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

クリスマス コンサート

Merry Christmas

平成29年12月2日土曜日に毎年恒例となりましたクリスマスコンサートが開催されました。前日夕方、玄関ホールにクリスマスツリーを設置して、ガラス窓や壁面などクリスマス一色に飾りつけを行い、参加される患者さんやご家族がクリスマスの雰囲気味わえるように医療サービス向上委員で準備を行いました。そして、当日は委員を中心に看護学生を含むボランティアスタッフの協力のもと、51人の患者さんを会場へのご案内し、今年赴任された田中院長の開会の挨拶からコンサートは始まりました。

トップバッターはつくし保育園の1~3歳の園児たち10人によるお歌披露でした。元気がかわいらしい歌声に患者さん方も喜ばれていました。また、看護学生によるコーラスでは、「花は咲く」の合唱で感動し涙を流されている患者さんも見受けました。昨年に続き参加していただいた「琴伝流大正琴びおら会」の方々による大正琴は、演歌など聴衆を魅了する演奏で、息のあった美しい琴の音色が会場に響き渡っていました。新人看護師とその仲間と結成しているバンド「B&B」による金管楽器演奏は、「隣のトトロ」の迫力ある楽しい演奏で、また、毎年ご出演していただいている吹奏楽団「サザンウィンド」によるフルートのアンサンブル・金管楽器の2重奏・クラリネットは、美しい音色が響きわたり心穏やかなような演奏で会場を盛り上げていただきました。当院研修医によるピアノ演奏では、今年話題となった「美女と野獣」の美しい音色を聞くことができました。

また、コンサート終了後、患者さん・ご家族にはティーパーティー会場に移動していただき、栄養士や調理師によるスイーツ・果物・温かい飲み物で楽しんでいただきました。

12月に入り、寒い時期に行っているクリスマスコンサートで、外出もままならない患者さん方と今年も共に楽しい時間を過ごすことができ、私たち職員も大変嬉しく思っています。

今後も、患者さんが笑顔になれるよう職員一同協力し合って、医療サービス向上のため努めてまいります。

(文責：医療サービス向上委員 谷山 実穂)



大規模災害訓練

当院での大規模災害訓練を終えて

去る12月9日の土曜日、当院で2回目となる大規模災害訓練を実施致しました。1914年1月12日に発生した大正桜島大噴火による地震と同規模、具体的には震度5強の地震発生を想定致しました。土曜日の訓練であったにもかかわらず、約150名の方々に参加していただき、無事に実施することができました。

そもそも、私どもの国立病院機構は大規模災害発生時、全国143病院全体として対応するネットワークを構築しております。厚生労働省からの要請で国立病院機構本部に災害本部を設置し、国立病院機構で指定している東京の災害医療センターを含む5つの基幹災害医療センターと30ヶ所の災害医療センター、その他の病院群で協力して災害現場へ医療班を派遣しています。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、全国の国立病院機構から約1500名の職員を被災地に派遣しました。当院でも東日本大震災では発生から1週間後、2016年4月14日の熊本地震時には発生から4日後に当院から5名（医師2名、看護師2名、事務1名）からなる医療チームを派遣しております。今までは他の地域への援助を行う事で災害医療に関わってきましたが、このように日本中いつでも起こりうる地震に備えることは、隣県の熊本地震を例に出すまでもなく重要であると思われれます。今回、第2回目の訓練という事もあり、他院より20名の見学者も受け入れました。当院の災害訓練を参考にして頂くとともに、様々な意見を頂戴し、次回の大規模災害訓練に役立てていこうと思っております。

（文責：副院長 中島 均）



誓いの式を終えて



平成29年11月17日（金）に、1年生の誓いの式が行われました。12月の基礎看護学実習を前にして、看護師になるという決意を新たにしました。

今回、私は誓いの式プロジェクトメンバーとして、誓いの式に携わることができました。どんな時も今日誓った誓いの詞を思い出し、壁をひとつずつ乗り越え、理想とする看護師を目指して努力し続けていきたいと思います。（1年 桑波田）



社会人として本校に入学してから、半年が経過しました。先生方や同期の仲間との出会いと支えがあり、前進することができました。これからも患者さんの気持ちに敏感に気づき、声に出すことのできない言葉を受け止め患者さんに必要な支援を追求していきます。皆で誓った言葉を胸に目指すべき看護師像に向かって、仲間と共に研鑽し合い、一生成長し続けていきたいと思っています。（1年 大野）



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻・久保・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

